

ビタミンE添加飼料を給与した地域特産鶏のムネ肉中イノシン酸量の推移					
[要約] 地域特産鶏「はかた一番どり」にビタミンEを添加した飼料を給与すると、生体重に影響なく雌ではムネ肉中のイノシン酸量が高く推移する傾向にあり、 <u>腹腔内脂肪</u> は雄雌ともにやや減少する。					
担当部署	家畜部・家きんチーム			連絡先	092-925-5232
対象作目	肉用鶏	専門項目	飼養管理	成果分類	生理生態

[背景・ねらい]

鶏肉中のイノシン酸は旨味を形成する大きな要素の一つであるが、鶏肉は死後変化が早いため、イノシン酸量は屠殺直後から減少していく。また、通常63日齢で出荷される地域特産鶏「はかた一番どり」は、90～120日齢程度飼養される「地鶏」クラスの鶏種に比べて、ムネ肉中のイノシン酸量及びその持続性はともに低い。そこで、「はかた一番どり」に抗酸化作用のあるビタミンE（ α -トコフェロール、VE）を添加した飼料を給与し、ムネ肉中のイノシン酸量及びその持続性の向上を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 「はかた一番どり」用飼料へのVE添加の有無による、生体重等の育成成績に有意な変化は認められない。VE添加量の比較においては、100mg/kg添加した飼料を給与すると、200mg/kg添加した飼料を給与した場合に比べて生体重は増加する（表1）。
2. 「はかた一番どり」用飼料へのVE添加により、ムネ肉中イノシン酸量は雌において高く推移するが、雄雌平均ではVE添加の有無による有意な変化は認められない。また、雄雌ともに屠殺後24～48時間後の範囲ではその傾向は変わらない（表2、図1）。
3. 腹腔内脂肪は、VE添加量の増加に伴って減少する傾向が見られる（表1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 地域特産鶏の肉質を向上する場合の技術資料として活用できる。
2. 腹腔内脂肪量を低減するために飼料へのVE添加を利用できる可能性はあるが、VE100mg添加により飼料費は2円/kg上昇する。

[具体的データ]

表 1 育成及び解体成績

VE添加量 (mg/kg)	生体重 (g)	飼料要求率	日増体重 (g)	正肉比率 (%)	腹腔内脂肪 (g)	腹腔内脂肪割合 (対生体%)
0	2,750	2.18	43.1	36.28	88.67	3.27
100	2,839 a	2.20	44.5	37.00	78.08	2.82
200	2,709 b	2.31	42.4	36.38	67.92	2.53

- 注) 1. 縦列異符号間に有意差あり (P < 0.05)
 2. 試験期間は平成13年8月22日 ~ 10月30日
 3. 36 ~ 63日齢の期間にVEを0、100、200mg/kg添加した飼料を給与
 4. 試験解体は平成13年10月25日 (63日齢)

表 2 ムネ肉中イノシン酸量

性	VE添加量 (mg/kg)	24時間後 ($\mu\text{mol/g}$)	48時間後 ($\mu\text{mol/g}$)
	0	6.18	5.37
	100	5.94	5.26
	200	5.80	5.48
	0	5.37	5.02
	100	6.41	5.95
	200	6.43	5.60
平均	0	5.78	5.19
	100	6.17	5.60
	200	6.11	5.54

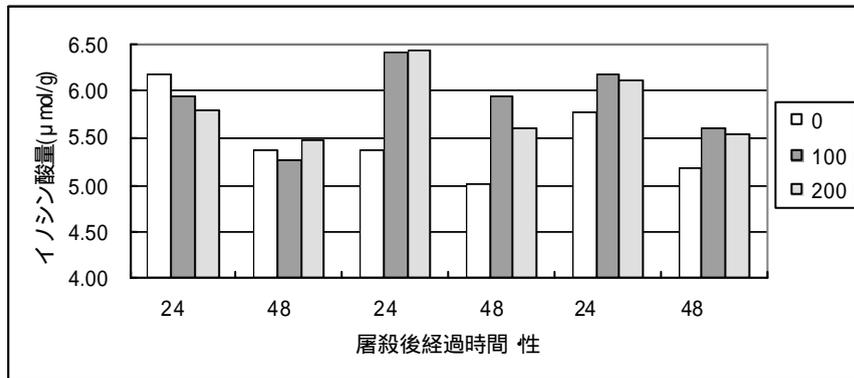


図 1 ムネ肉中イノシン酸量

[その他]

研究課題名：飼料栄養水準に伴う肉質変動の解明
 予算区分：経常
 研究期間：平成14年度 (平成12 ~ 14年)
 研究担当者：月野友和、西尾祐介、福原絵里子、池田加江、田口清實
 発表論文等：平成12 ~ 14年度畜産関係試験成績書